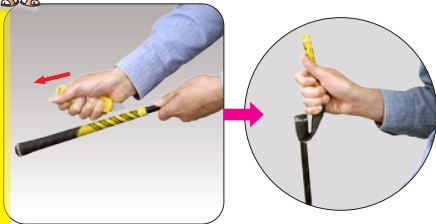


簡単だよ、グリップ交換 ウッド・アイアン編

グリップには寿命があります。
表面がツルツルになったグリップは汗や雨ですべりやすく、梅雨や夏場はとて危険です。長年使って表面がカチカチになってしまったりグリップ時の感触も悪く、しっくりこない。たとえ使用しなくてもゴムは老化してしまうので、保管状況や使用回数にもよりますが、グリップの寿命は約1年を目安に自分で交換してみよう!!



① 古いグリップをカットする



グリップカッターでグリップに切り込みを入れます。切り込みを入れる際は必ずヘッド側からバット側に向けて入れてください。

② 古い両面テープを取り除く



シャフトに残った両面テープをキレイにはがします。両面テープのカスが残っていると新しいグリップを上手に装着できません。

Point はがれにくい場合はドライヤーの熱(カーボンシャフトは熱に注意)であたためてテープの糊を柔らかくしたり、グリップ交換溶液をかけて取り除くことも簡単。最後にグリップ交換溶液でシャフトをキレイに拭いておきましょう。カーボンシャフトは端からカーボンの繊維をはがれてくることがあるので、必ずヘッド側からはがすこと!

③ 両面テープを巻く長さを確認する



新しいグリップをシャフトに当てて、両面テープを巻く長さを確認、赤えんぴつやマジックでマーキングしておきましょう。

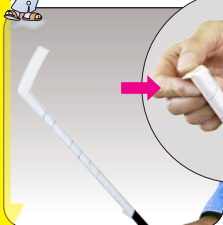
④ 新しい両面テープを巻く



両面テープの巻き方には「らせん巻き」と「たて巻き」があります。一般的には「らせん巻き」が主流です。(画像のらせん巻きでは両面テープを約65cm使用します)

Point グリップの長さより少し短めの位置から貼り始め、反時計回りとなります。これが基本です。

⑤ 両面テープで蓋をする



両面テープが巻けたらセパレーター(裏紙)を剥がし、テープの端でシャフト先端(切り口/バット側)を完全にふさいでしまいます。これにより、水や砂の浸入を防ぐことができます。

Point テープのういているところは親指の腹でシワにならないように押さえるとキレイに貼れます。

⑥ 両面テープに交換溶液を吹き付ける



クラブ側(シャフト)の両面テープ全体に溶液を吹きかけます。この際、吹きかけていない箇所がないようにしましょう。



誤った使用方法
エアゾール交換溶液は、缶を横向きや逆さまにして使用しないでください。横向きや逆さままでのご使用はガスだけ出て、中身をきれいに使い切れなくなってしまいます。

⑦ グリップ内側にも交換溶液を吹き付ける



グリップエンドの穴を指でふさぎ、交換溶液をグリップのなか全体に吹き付けます。

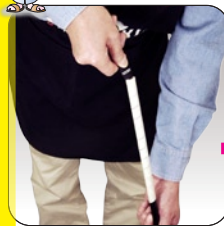


グリップ両はしを塞ぎ、交換溶液が全体にいきわたるように軽く振ります。



最後の仕上げに...
最後にグリップ内に残った溶液をテープにかけて、再度しみこませます。

⑧ グリップを入れる



手早く一気に差込む

新しいグリップを一気にシャフトに挿入します。(交換溶液がたっぷりついていればスルリと入る) 挿入の際、手で簡単にスクエアに直せるようにある程度まっすぐに入れます。目安は、シャフト軸のセンターにグリップをスクエアに合わせる。

⑨ グリップを自分の好みに合わせる



グリップの向きを確認

バックライン(BL)のあるグリップはバックラインがまっすぐ入るように調整します。バックラインの入り方により、球筋が変わることがありますので注意して調整してください。またバックラインのないグリップは特に入れ方に注意は必要ないですが、マークが正面にくるように調整しましょう。

Point 装着後、10分が勝負!!
交換溶液が乾き始める前に調整を!!

⑩ グリップの向きを合わせる



実際にグリップして微調整

最後に実際にグリップを握ってみて確認しましょう。見た目ではなくグリップを握ったときのフィーリングが肝心だからです。最後に、布に交換溶液をつけてシャフトをキレイに拭いておきましょう。

Point グリップの長さもチェック!!
入れる前の長さが変わってしまうと、太さが変わってしまいます。

乾燥
挿入後は、24時間以上放置し十分に乾かしてから使用してください。



完成!!

どこに貼ったらいいのか？

45インチ(ドライバー)に1gで0.6ポイント

38インチ(アイアン)に1gで0.5ポイント

アップします。

(上記のポイントはクラブの仕様により異なります)

- フックを抑える
- ひっかけを抑える
- ヒールに貼るより重さを感じる

- 高弾道になる
- 球のつかまりが良くなる

- スライスを抑える
- 球のつかまりが良くなる
- ヘッドの返りを良くする

- 低重心になる
- 球打ち出し角が上がる

- ランを出したい
- 弾道を低くしたい時
- 吹き上がりを抑える

- ヘッドが重く感じる
- シャフトが軽すぎる時



ヘッドを軽くしたい!!

グリップ側シャフト。ヘッドが軽く感じ、振りやすく振り抜けが良くなる。しかし、貼りすぎはタイミングが取りにくくなるので5gまで!!

【フェアウェイウッド】

バックフェースのなるべく低い位置に貼るとボールが上がりやすくなります。

【アイアン】

ショートアイアン
球筋を安定させたい!!
バックフェースのソール
よりのトゥ側。



ロングアイアン
高い球を打ちたい!!
バックフェースのソール
よりのヒール側。

ロングアイアン
フケ球をなくしたい!!
バックフェースのホーゼル
よりのヒール側。
高弾道で球筋が安定する。



なぜ?? なぜ、スライスとフック昔と貼る位置が逆なの?
スライス防止にトゥ側に貼っていた鉛...
最近なぜヒール側に貼るの?

トゥ側に鉛を貼って先端を重くすることでトゥが先行してスライスを防止していたのが昔の話。

パーシモンヘッドなどのヘッド体積が200cc以下の慣性モーメント(※1)が小さいクラブには効果がありますが、最近のヘッド(300cc以上)は慣性モーメントが大きく重心距離が長いのに加え長尺シャフトのためインパクトでトゥが遅れてしまいボールが右に飛びやすいためトゥに鉛を貼ってしまうとかえってヘッドが重くなりすぎてトゥ側のもどりが遅れてしまうのでヒール側に鉛を貼り軽いトゥを先行させ、なおかつトゥダウンを防ぐことでスライスを防止させるわけです。

(※1) 慣性モーメント: 物体は外からの力が加わらないかぎり、その運動状態を持続する性質があります。この性質を「慣性」といい、回転に関するその大きさを「慣性モーメント」といいます。

(※2) 重心深度: リーディングエッジから重心までの水平方向の距離。重心深度が深いとスイートスポットが広がる。

(※3) 重心距離: シャフトの中心線から重心までの距離